

2000	<p>平成12年7月17日 CMCセルロースを用いたハイドロゲルの新製造法を開発</p> <p>平成12年8月9日 炭化ケイ素セラミックス複合材を開発</p> <p>平成12年8月30日 電子ビームによるダイオキシン分解・除去試験を開始</p> <p>平成12年9月7日 イオンビーム照射で花びらの形を決める新規遺伝子を発見</p> <p>平成12年9月26日 ベトナム原子力委員会と放射線加工処理の分野における研究協力取決め締結</p> <p>平成13年1月26日 究極のシングルイオンヒット技術を開発</p>	2005	<p>平成16年7月 電子線橋かけによるハイドロゲルを利用した「ビューゲル」を開発(大鵬薬品工業(株)と共同)</p> <p>平成16年10月21日 イオンビームを用いた画期的な歯質中フッ素濃度分布測定技術を開発</p> <p>平成16年12月16日 独立行政法人日本原子力研究開発機構法が公布、施行</p>
2001	<p>平成13年9月21日 実海域における海水中ウラン捕集実証試験により、3年間で1kgのイエローケーキを採取</p> <p>平成13年11月12日 陽電子を用いた新規表面分析技術の開発</p> <p>平成14年2月14日 電子ビームで排煙中のダイオキシンを90%以上分解する技術を開発</p> <p>平成14年3月28日 イオン照射によるカーネーションの新品種開発、種苗登録(キリンビール(株)と共同)</p>	2006	<p>平成17年7月13日 ISO・JIS Q 140001登録(登録番号:EC05J0099)環境浄化・保全技術、医療・バイオ応用技術、環境材料・機能材料の研究開発</p> <p>平成17年10月1日 原子力二法人統合</p> <p>平成17年11月 放射線で傷ついたDNAを直す遺伝子(PprAタンパク質)を発見、バイオ薬品として販売(株ニッポンジーン)</p> <p>平成18年3月15日 イネに吸収されたカドミウムの動きを植物ポジトロンイメージング技術で初めて観測</p>
2002	<p>平成14年4月25日 イオン交換容量の大きなフッ素樹脂膜の開発</p> <p>平成14年8月1日 デンブンハイドロゲルを用いた床ずれ予防マットの開発</p> <p>平成14年8月16日 炭化ケイ素MOSFETを開発・作成に成功 シリコンの300倍以上の耐放射線性を実証</p> <p>平成14年9月3日 重イオンのシングルイオン照射で細胞致死を初めて確認</p> <p>平成14年9月8~13日 マイクロプローブ国際会議(ICNMTA)を開催</p> <p>平成14年11月12日 イオンビームと再分化技術を用いたキク新品種の育成、6品種を種苗登録</p> <p>平成15年1月24日 CTBT放射性核種監視観測所を設置 (16.2.9 核実験監視施設の国際認証を取得)</p>	2007	<p>平成18年4月25日 植物が紫外線に強くなる新たな仕組みを発見</p> <p>平成18年6月22~23日 第1回高崎量子応用研究シンポジウムを開催</p> <p>平成18年8月 セルロースゲルにより改質した低収縮和紙を開発(石川製紙(株)と共同)</p> <p>平成18年9月4日 高性能アンテナ用フッ素樹脂基板の開発</p> <p>平成18年10月 第49回放射線化学討論会を開催</p> <p>平成19年2月19日 高エネルギープロトンビームによる3次元繊細加工技術を開発</p>
2003	<p>平成15年4月23日 創立40周年記念式典を開催</p> <p>平成15年9月22日 植物の新しい紫外線耐性遺伝子を発見</p> <p>平成16年2月 電子線橋かけによるハイドロゲルを利用した「ジェルプロテクター」を開発(ニチバン(株)と共同)</p> <p>平成16年3月12日 デンブンから透明な耐熱・生分解性熱収縮材を創製</p>	2008	<p>平成19年5月14日 地域連携でオステオスペルマムの新品種を作出</p> <p>平成19年6月 塩化ビニールに替わる柔らかいポリ乳酸の開発</p> <p>平成19年8月 イオンビームを用いて高い環境浄化を持つ植物品種の育成に初めて成功</p> <p>平成19年9月5日 百MeV級重イオンで1ミクロン以下のビームを形成</p> <p>平成19年10月28日 たかさき地球市民環境賞受賞</p> <p>平成20年2月8日 第1回放射線利用フォーラムを開催</p>
2004	<p>平成16年6月1日 世界最高のチャンネル移動速度230cm<sup>2</sup>/VSの炭化ケイ素半導体を開発</p>		<p>平成20年6月 従来の「放射線治療」が効かないがん「重粒子線治療」が有効であることを発見</p> <p>平成20年7月 貯留水の小型・可搬式水質浄化装置を開発(株第一テクノと共同)</p>